

## 序論

文化家によって「文化」という言葉は複雑な意味を持つてゐる。なぜなら、この言葉はいろいろな意味とそれぞれの考え方によって違う方向に通訳することができる。「文化」ということは人生の様相を包み込んで、たとえば考え方や人の性格などである。文化の伝え方にはいろいろな方法があつて、その一つは映画である。

『ラーメンガール』という映画に Abby というキャラクターの学ぶことは見習いと言う。Abby は見習い工、または弟子と呼ばれる。「見習い」の漢字を見ると「見てから習う」の意味を表す。この「見習い」はラーメンのことだけではなく、すべての美術を包み込むことである。たとえば彫刻術や書道などです。

John Calhoun Singleton の「*Learning in Likely Places: Varieties of Apprenticeship in Japan*」の中に Gary DeCoker は見習いについて七つポイントを書いている。このポイントは見習いで鍛える日本人の性格を包み込む。その七つのポイントは「*copying the model*」、「*discipline*」、「*master – desciple relations*」、「*secrets, stage, and the hierarchy of study*」、「*established lineage*」、「*non-verbal communication*」、そして「*art as a spiritual quest*」である。このポイントを使い出して、著者は日本文化を見習いについて調べ上げる。

## 本論

序論に述べるとおり、見習うの意味は「見てから習う」という意味を持つ。だがもっと調べると、見習うの意味を見ると習うだけではなく、他の意味もありそうである。見習いの中で力量だけではなく、「魂」の意味もあって、それは先生から譲り受けることである。けっきょく育ち行けるのは私たちの才能だけではなく、性格も態度も育ち行ける。

弟子としての生活もそんなに簡単ではないと思う。誰もかも弟子になれるわけではないと John Singleton が言った。絶対服従と訓育が強く求められて、辛抱と根気が最大まで引き伸ばさなければならない。「ラーメンガール」という映画に出る見習いの七つのポイントは下記に述べられる：

### 1. Copying the Model

見習いは初期段階の技の繰り返しに押し出す。この初期段階の技はまず先生が例を挙げて、弟子が見て、そのわざを弟子が似せる。映画の中に、Abby さんが認められるばかりなのに、自分の感知で思い切りラーメンを作ってみることである。

### 2. Discipline

見習と言うのは弟子の力量だけではなく、心境も訓練される。練習をあげるとき、先生はよく厳しくなる。先生は弟子の心境が育ち行けるように風刺や皮肉などがよく付ける。このポイントは Abby は初日に十五分遅れてときのシーンに見られる。

### 3. Master – Disciple Relations

日本の人間関係に段階がよく見える。言葉の使い方や態度などは人によって違う。日本語の中に上下関係があるからである。その上下関係で、言葉の使い方だけではなく、目上の人に向かっての態度も考えなければならない。このポイントの描写は Abby さんは Maezumi 先生の許可を貰わず、店を勝手に飾ることである。

#### **4. Secrets, Stage, and the Hierarchy of Study**

このポイントの要訣は日本の教え方に段階とステージがある。このポイントは Maezumi 先生は Abby さんにラーメンを作り練習をおしえていないから、Abby さんは Maezumi 先生に怒っているになるのシーンが見える。

#### **5. Established Lineage**

このポイントは美術の流れの歴史の大切なことを伝える。このポイントの描写は Maezumi 先生はお母さんに来て、Abby さんに教えられてあげられる。

#### **6. Non-verbal Communication**

このポイントに日本人の先生は弟子たちに全ての授業の体要を教えない習慣のことを伝える。先生は指導させたかないではなく、弟子たちが個人的に先生の例を見て、自分で学んでいる。このポイントが Maezumi 先生は Abby さんのラーメンを味わうシーンを見せる。Maezumi 先生は Abby さんが作ったラーメンに満足ではなくになって、なにも言わず、そのラーメンを捨てられた。

#### **7 Art as a Spiritual Quest**

このポイントの大事なことは弟子たちが自然に考えず、わざを正しくやる。Abby さんは泣きながらラーメンのスープを作る。Maezumi 先生は Abby が作ったラーメンを味わうときに、考えずに涙を流す。このシーンで Abby さんは見習うのことがやっとわかっている。

## 結論

前の分析を見れば, Gary DeCoker の理論の「見習いの七つのポイント」は本当です。「ラーメンガール」の映画に見えて思い知るかどうか、日本の先生はその映画のように躰ける。

または、前の分析に元づき、Abby さんは七つのポイントをついていくことが出来ないから、彼女はいい弟子とは言えない。それだから七つのポイントは見習いことに生きるだけではなく、いい弟子の活用「倫理規定」として思われることができる。

Gary DeCoker の分析の存在と役目を知ってたら、次の問題が出る。見習いのことは方便の練成だけであるか？それとも、見習いのことは日本人の生活にほかの機能はあるか？その問題の答えは Abby の成長に見えます。映画に Maezumi 先生は峭刻と暴虐の人に写す。しかしそんなに矯激ではなくても、日本の先生たちは躰けるときにそんなに違わない。たとえば Bill Haase の経験で、日本の先生たちは皮肉を使って、弟子をもっとよくなれるようにチャレンジする。訓育という言葉は需要し続けている。

映画に Abby さんの心の進境が見えて、もっと大人になった。最初に仕付けな弟子ではなくて、当然な目的がなく生きていて、駄々っ子の Abby さんが、もっと強気と仕付けな人へ変わった。Abby さんの数十年の生活のあいだと違って彼女は時間にも生活にももっと秩序立つになって、当然な目的を思い込める。

見習いはアートを練習することではなくこれは結論を下される。まず練習させるのは私たちの手並みではなく、心緒である。弟子になることは、まず私たちは弟子になれるようにならなければならないと Bill Haase は言った。この方便を使って私たちの心緒は成長することができる。Abby さんのように私たちはもっと大人になって、意志的になって、当然な目的を思い込める

## DAFTAR ISI

<b>KATA PENGANTAR</b> .....	ii
<b>DAFTAR ISI</b> .....	iv
<b>BAB I PENDAHULUAN</b>	
<b>1.1</b> Latar Belakang .....	1
<b>1.2</b> Rumusan Masalah .....	6
<b>1.3</b> Tujuan Penulisan .....	7
<b>1.4</b> Pendekatan .....	7
<b>1.5</b> Organisasi Penulisan .....	9
<b>BAB II MINARAI</b>	
<b>2.1</b> Pengertian <i>Minarai</i> .....	11
<b>2.2</b> Tujuh Karakteristik Dalam <i>Minarai</i> .....	15
<b>2.2.1</b> Meniru Model sang Guru .....	15
<b>2.2.2</b> Kedisiplinan .....	17
<b>2.2.3</b> Hubungan Guru dan Muridnya .....	18
<b>2.2.4</b> Rahasia, Tahap-tahap, dan Hierarki Pembelajaran .....	20
<b>2.2.5</b> Kemapanan Silsilah .....	22
<b>2.2.6</b> Komunikasi Non-verbal .....	24
<b>2.2.7</b> Seni Sebagai Panggilan Jiwa .....	26
<b>BAB III ANALISIS 7 KARAKTERISTIK DALAM FILM RAMEN GIRL</b>	
<b>3.1</b> Pelajaran Pertama: Kesabaran dan Kesiapan Mental .....	28
<b>3.2</b> Pelajaran Kedua: Lihat dan Pelajari .....	40
<b>3.3</b> Pelajaran Ketiga: Tuangkan Jiwamu .....	53
<b>BAB IV KESIMPULAN</b> .....	57
<b>DAFTAR PUSTAKA</b> .....	v
<b>SINOPSIS</b> .....	vi